

別記 各支部委員会 各分會 御中

関東金屬労働組合

産業合理化名にある職首を事業縮少の名にかくして三千名兄弟の大職首をしようとしてぬる  
東電資本家は 兄弟連の反抗をうまくそうして事を運ばいと官大と結託して各職場に  
番入を張らして嚴重な警戒張りには従業員を威嚇してゐる。

六名、引き連れて二名、ソコへ奔りはひらめて来た。

この暴圧の中は東電の兄弟の戦士準備は直ぐに進められてゐる

明十四日六時半より一野自協会館に於て従業員大会が開かれる。

東電従業員は生死は直ぐに又我金屬労働者の浮沈なのだ。

明日の従業員大会にも多く参加して東電の兄弟を勵すのは我々の義務だ。

各支部委員会に必ず代表者を出して激勵しろ

準備と二名以上呼び出せ

東電の兄弟を勝たせろ！

従業員大会におしかけろ！

別記

檄

東京電燈に於てはいよいよ 重職首を始めた其の具体的前提として先づ静岡火力  
発電所勤務者全部七名に於て二十七日営業所詰とする所謂不當勤務を傳達して来  
たのだ。それ故に会社の理由として火力発電所は閉鎖を行ふと後でそうした処に  
大数の人員を置くこと云々の会社として損である。だからどうしても八月一日ふ  
り営業所詰になつてもういたいと云ぬのだ。諸君、我々は会社に藉を置き働く上  
に於て確立した職場を持ち辞令があつてこそ始りそこに安んずるを見出すべきである。  
然るに会社は先づ我々の籍を奪ひたが漠然たる営業所詰を強要して種々雑多な所  
謂浮浪人夫と同様な仕事を與へ遂にはそれには堪へられぬ様にして自分より会社を  
身も引くと云ぬ様な所謂自然トータを持ちかけて来たのだ。しかも之によつて  
二交代手當我々は晝夜勤務者である営業所詰は日勤業務をも取らうとして居るの  
だ。更に又之れに依つて組合の進展を妨げ進んでは組合をブツツブスうとしてゐ  
るのだ。こうした会社のやり口は只單に火力必の問題では無いこれに依つて次々  
と会社は權威を振ひ組合員全体におそひ料つて来ることは我々ははつきりと思は  
なくてはならないのだ。

そこで我々はかゝる会社の暴逆に對して分會總會を聞き対策を決定すると今特に  
会社に向つて撤回を求めたのである。すると会社では一應考へて相談すると云ふ